横浜市立瀬谷中学校移転に関する地域説明会
実施報告及び主な質疑応答内容

発行日：令和６年５月２３日
発　行：横浜市教育委員会事務局
学校計画課

■ 実施報告

横浜市立瀬谷中学校移転建替事業について、地域の皆様に現瀬谷中学校が抱えている課題や事業化に至るまでの経緯、今後の計画等を御説明しました。

＜実施状況＞

日時：令和６年３月 22 日（金）19：00～21：00　参加者：99 名
３月 23 日（土）10：00～12：00　参加者：80 名

会場：横浜市立瀬谷中学校体育館

※当日資料は、市ホームページで御覧いただけます。

https://www.city.yokohama.lg.jp/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/gakko/seya_jhs_tatekae/setsumeikai.html

■ 主な質疑応答内容

（☆：御質問、★御意見、→：横浜市からの回答・説明）

1　中学校移転について

☆ 現瀬谷中学校での建替を検討しなかったのか。旧瀬谷西高校跡地に移転する理由は何か。

→　旧瀬谷西高校跡地に仮校舎を一時的に建設し、現瀬谷中学校敷地内で建替えること等も検討しましたが、現瀬谷中学校は、校舎棟の老朽化及びプレハブ棟が今後も撤去できないといった施設面の課題に加えて、瀬谷中学校の通学区域内に望ましい通学距離（※）である、片道おおむね３kmを超える地域があり、市内で唯一自転車通学を行っている等といった通学環境面の課題があります。これらの課題を抜本的に解決し、より良い教育環境を提供するための方法として、旧瀬谷西高校跡地へ移転・新築を行うといった判断に至りました。

（※）「横浜市立小・中学校の通学区域制度及び学校規模に関する基本方針（平成 30 年 12 月改訂）」より抜粋
本市では、市域の大半が市街地であり、道路交通事情等の状況を踏まえると、自転車通学は難しいことから、徒歩による通学を原則とする。徒歩での通学を前提に、児童生徒の体力・通学安全などを総合的に勘案し、望ましい通学距離は、小学校では片道おおむね２km以内、中学校では片道おおむね３km以内とする。（国の通学距離の考え方：小学校片道おおむね４km以内、中学校では片道おおむね６km以内）
なお、上記基本方針については、横浜市教育委員会ホームページに掲載しています。
https://www.city.yokohama.lg.jp/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/tekiseika/gakku-houshin.html

☆ 旧瀬谷西高校跡地にもう一つ中学校を新設し、通学区域南側は現瀬谷中学校をそのままに、通学区域北側は新設中学校、といったかたちで振り分けるのが良いのはないか。

→　本市における、小・中学校の（分離）新設については、「横浜市立小・中学校の通学区域制度及び学校規模に関する基本方針（平成 30（2018）年 12 月改訂）」（上記、※参照）を定めており、過大規模（一般学級数 31 学級以上）となる場合において、分離新設等で新たな学校をつくるという考え方もあります。一方で、令和５年度の瀬谷中学校の一般学級数は 21 学級であり、分離新設の要件を満たしておらず、今後の生徒数も増加しないと見込んでいることから、瀬谷中学校とは別に中学校を新設することは難しいと判断しました。

☆ 旧瀬谷西高校から北側と南側での生徒数の比率は現状、どのくらいなのか。

→　令和５年度の生徒数をもとに、町別に学校実態調査等で把握している数字によりますと、おおむね旧瀬谷西高校から北側で２４０名程度となります。令和５年度瀬谷中学校の生徒数が約８３０名ですので、旧瀬谷西高校以北が約３割、以南が約７割といった状況です。

☆ 資料記載の通学距離・時間については何を根拠に示しているのか。（当日資料 P.19）

→　通学にかかる時間は、教育委員会の担当者で実際に歩いて計測した時間となります。（分速約 70m）また、距離については、地図にて実測したものをお示ししています。

☆ 今後、少子化で子どもの数としては少なくなっていくと思われるが、仮に通学区域内で再開発が行われ、生徒数が増えていくような場合が発生したときのことは想定しているのか。

→　例えば、再開発等で人口、子どもの数が増えた際は、「教室が足りない」といった事態が想定されますが、旧上瀬谷通信施設地区の区域内においては、現時点で住宅建設の予定はなく、そのほか瀬谷中学校の通学区域内においても現状、大規模な宅地開発は計画されていません。また、瀬谷中学校に将来通学する小学校３校（瀬谷小学校・大門小学校・上瀬谷小学校）の児童数については、今後微減もしくは横ばいで推移すると見込んでおりますので、今後しばらくは、瀬谷中学校の学級数は 18 学級前後程度で推移していくものと見込んでいます。

仮に、将来に渡って生徒数が増加し、教室不足が見込まれる場合は、校舎を改修し、教室を確保します。また、想定外でさらに生徒数が増えるようなことが起きた場合は、移転先の敷地は、相応の広さがありますので、増築等の対応も場合によっては検討いたします。

☆ 現在、自転車通学をしている生徒はどの位の割合いるのか。

→　学校に確認したところ、令和５年度時点で自転車通学を行っている生徒は、約 60 名です。本市が望ましい通学距離としている３㎞を超える遠距離通学をしているのは、約 80 名で全体の約 1 割です。

☆ 移転することによって自転車通学はどうなるのか。また、保護者用の駐輪場の設置や来校を許可してほしい。

→　自転車通学については、現在まで大きな事故こそ発生していませんが、転倒による怪我や、車の飛び出し等、危険な場面があると中学校からも聞いているところです。生徒の皆さんの負担が増えるところもあると思いますが、移転後の自転車通学については、生徒の通学時の安全を確保するために、現時点で決定事項ではありませんが、教育委員会としては、基本的に終了と考えています。

駐輪場については、御意見として受け止めさせていただきます。原則、生徒及び保護者の方が利用するための駐輪場は、小学校・中学校ともに整備しておらず、現時点では、移転先の中学校でそうした駐輪場を整備することは、検討しておりません。

☆ 今まで、県から市または、市から県と学校が移転した例はあるのか

→　例えば、下瀬谷小学校と日向山小学校の学校統合に伴い、瀬谷さくら小学校が新たに開校した後、日向山小学校跡地を神奈川県立横浜ひなたやま支援学校の敷地として活用している例があります。

基本的には、市及び県がそれぞれ必要に応じて学校整備を行っていますので、事例としては多くないと考えています。

☆ 現在の瀬谷中学校は、移転までの間に地震等が発生した場合、大丈夫なのか。

→　横浜市内には約５００校の小・中学校がありますが、全校、耐震補強されていますので、今後、地震などが発生した場合でも、倒壊の恐れはないと考えています。瀬谷中学校は、たしかに老朽化していますが、構造的な部分の安全性については、満たされていると考えています。

☆ 現在の瀬谷中学校が建てられた際、過去の経緯（土地の提供等）は検討したのか。

→　瀬谷中学校は地元の方々の多大な御協力をいただいて建てられたということにつきましては、承知しています。事前に地域の皆様と意見交換を行った際にも、瀬谷中学校の跡地はどうなるのか、また、過去の経緯等を含めてどうなのか、という御意見を多くいただきましたが、現瀬谷中学校が抱えている課題を解決するために、このたび、旧瀬谷西高校跡地への移転の判断に至りました。

移転後の現瀬谷中学校の跡地活用については、まちづくりを所管する都市整備局や、瀬谷区役所等において、今までの経緯等も踏まえて、瀬谷区の皆さんにとって、横浜市の皆さんにとってより良いまちづくりとなるよう、しっかりと取り組ませていただきたいと考えています。

★ 通学区域内の一番北部に住んでいる生徒にとっては、バスも通行していなく、南町田まで出て、私学に通っている生徒も多い。そうした中で、中学校移転を10年以上前から地域としても考えてきた。それがようやく実現する方向となっていることには大変、感謝している。今後も子ども達のことを考えた教育行政を推進してほしい。

２　建築計画について

☆ 移転後の校舎棟は環状4号線よりの敷地東側に設置する計画なのか。道路からの騒音が心配だ。

→　資料P.14に記載がありますが、新校舎の位置（東側グラウンドの中でどこに建設するか）・形状等は、現時点では未定です。今後、設計業者を選定し、設計作業を進めますが、通常、学校を建てる際は、校庭の砂ぼこりや児童生徒の声が漏れないか、教室の黒板に光がどういうように当たるか等、様々な配置プランを考えながら最良の案を採用していくことになります。資料の校舎棟の配置については、あくまで一例と考えていただき、いただいた御意見も参考に、今後、検討してまいります。

☆ 新しい校舎の形状はいつ頃決まるのか。

→　令和６年度から、基本設計・実施設計と準備を進めます。基本設計では、学校の諸条件・与条件を固め、校舎棟の形状・配置等について検討を進めます。例えば、校舎棟の形状はＬ字型なのか、四角形なのか。また、校舎位置は東側グラウンドの敷地北側なのか、東側なのか等については、メリット・デメリットを考えながら検討・決定をしていきます。その後、実施設計では、図面を描き、詳細を固めることになります。

☆ 移転時期が令和10年夏休みとなっている理由はなにか。新年度からスタートはできないのか。

→　令和６年度に設計作業を開始し、その後、工事を令和８年冬頃から開始し、建築規模等を考慮すると、２年弱の工期が必要ということを踏まえ、資料P.９のようなスケジュールを記載しています。

現況、工期等を踏まえると、令和10年夏頃に移転（引越し）が可能となることを想定しているため、移転時期として資料に記載していますが、工期については今後、早まることや後ろ倒しとなる場合もあり、新年度からの移転・引越しとなる場合もあり得ますので、移転時期は流動的とお考え下さい。

★ 旧瀬谷西高校は、現在の瀬谷中学校敷地の約2倍の広さがある。この敷地の広さを活用し、例えば、特色のある教育を実践したり、地域の方々と交流できる場所・環境を整備したり、配食センターの実験校のようなかたちで整備する等、有効活用していただくよう、今後検討してほしい。

3　通学区域・通学安全について

☆ 横浜市では中学校の望ましい通学距離を片道3kmとしているが、その根拠はなにか。

→　横浜市教育委員会では、「横浜市立小・中学校の通学区域制度及び学校規模に関する基本方針」を定めており、中学校の望ましい通学距離は片道おおむね３km以内と定めています。この基本方針については学識経験者や学校の先生などから組織される横浜市学校規模適正化等検討委員会にて議論を重ねて取りまとめています。

国の考え方では、小学校はおおむね４km 以内、中学校はおおむね６km 以内が適正な通学距離としていますが、横浜市は市街地ということからも、子供たちの安全を考えて徒歩での通学を原則としており、国の考え方の半分の小学校２km、中学校３km以内が望ましい通学距離と定めています。基本方針については、都度、見直しを行っており、最新の改訂は 2018 年（平成 30 年 12 月）の改訂になります。

☆ 通学区域の見直し等を検討する地域が資料内には瀬谷二丁目～六丁目と記載があるが、その他の地域については検討しないのか。

→　資料では、移転に伴って通学距離が遠くなる主な地域として、相鉄線から南側にある瀬谷二丁目～六丁目を例として記載しています。

通学区域は、基本的に各小中学校の状況や自治会町内会の関係性、また、地形や道路の状況等を勘案して設定していますので、通学区域の見直しの実施の有無や、どの地域を対象に検討するかについては、今後、地域の皆様の御意見も聞きながら検討します。

☆ 旧瀬谷西高校跡地に移転となった場合、周辺道路は通学路とあわせて整備されるのか。また、旧瀬谷西高校敷地東側に桜並木があるが、桜の木の生育に伴い、敷地をセットバックして、歩道を拡げる等の対策はできないか。

→　旧瀬谷西高校南側の環状４号線については、土地区画整理事業の区域外となりますが、道路にどのような課題があるか等については、今後の旧上瀬谷通信施設地区のまちづくりにあわせて、まちづくりの観点から、所管局と、必要に応じて検討していきます。

なお、中学生については、登下校時、どこを通らないといけないという通学路は厳密には指定しておらず、一義的には中学校に生徒の通学安全、生活指導を実施していただきます。しかし、どこが安全で、危険なのか等については、移転・開校時までに教育委員会もしくは学校の方で確認を行い、少しでも生徒の皆さんが安全に通学できるよう、今後対応していきます。

また、旧瀬谷西高校跡地東側のセットバックについては、今後、具体的に計画・整備する中で、所管局等に確認を行い、必要性や対応可能かも含め、検討していきます。

☆ 瀬谷6丁目から移転先の瀬谷西高校までのルートが示されているが、このルートは交通量も多く、小学生も通学すると思うので、実際には、相鉄線に沿って、現在の瀬谷中学校まで行き、そこから海軍道路を北上すると思われる。

→　通学距離について資料 P.19 に記載するにあたって、実際に歩いて確認をしました。その際、馴染みのある大門小学校の通学路を経由すると想定して、このルートを記載しました。しかし、小中学生の通学時間帯に歩いていないため、実際の通学時には、環状４号線・海軍道路で通学する事もあると思います。本日の御意見については、参考とさせていただき、移転までの間、通学安全の観点から検討を行い、学校から通学指導を行っていただきたいと考えています。

☆ 学校からの指導だけではなく、子どもたちの安全確保について、狭かったり暗かったりと危険のある道路については、しっかりと市で整備を行ってほしい。

→　横浜市では、市民の安全、安心という視点で、新しい道路をつくり、あるいは道路を広げることにより、細い道に入っていく通過車両を大きい道路に流すなど、計画的に取り組んでいます。

　瀬谷区においても、上瀬谷のまちづくりとあわせて周辺の道路整備等の抜本的な交通対策も事業化の段階に入っており、瀬谷北部地域含めて安全対策を進めていければと考えています。通学路の安全安心も含め、今後、総合的に検討していきたいと考えております。

☆ 中学校移転に伴って、例えば瀬谷中学校跡地に商業施設が建てられたり、上瀬谷でのテーマパーク開業に伴う駅前開発によって人や交通事情も変化があると考えられるが、その影響についてはどのように考えているのか。

→　テーマパーク・駅前開発による影響については、今後検討が具体化される事業計画を勘案し、学校とも相談しながら、生徒の皆様が安心安全に登下校できるよう、検討します。

☆ 環状４号線（海軍道路付近）の旧瀬谷西高校近くにバス停ができるのか。交通量に対して道が狭いと思う。自転車利用者と歩行者とでカラーベルトを採用するなど、分かりやすくしてほしい。

→　現在、海軍道路に路線バスは運行しておりません。将来、旧上瀬谷通信施設地区のまちづくりの動きとあわせて新たにバス路線が整備されるかは現時点では未定のため、バス停が新設されるかついても、現時点でお答えすることができません。

　一方、海軍道路については、土地区画整理事業により、旧上瀬谷通信施設地区内の拡幅が予定されていると聞いています。カラーベルトの必要性については、学校を含め確認の上、道路管理者等と相談していきたいと考えています。

☆ 瀬谷中学校が移転し、住宅地内を登下校で通行することになるなら、近隣の公園で騒ぐなど、周辺住民の迷惑にならないよう、登下校時の指導等を検討して欲しい。

→　生徒の通学安全、生活指導の観点であれば、一義的には、中学校で指導等していただくことになりますが、教育委員会としても学校を支援する立場ですので、必要なところでバックアップ、支援を行い、少しでも地域の皆様にとっても「良い中学校だな」と思っていただけるよう、尽力したいと考えています。

４　地域防災について

☆ 現在、瀬谷中学校は地域防災拠点、風水害時の避難場所に指定されているが、旧瀬谷西高校跡地に移転した場合はどうなるのか。高齢者にとっては、移転先（旧瀬谷西高校跡地）まで歩いて避難するのは難しい。

→　移転に伴う、現瀬谷中学校が備えている防災等に関する各機能の取り扱いについては、総務局危機管理室及び瀬谷区役所総務課において、調整・検討していきます。

☆ 現在、瀬谷中学校の地下には、発災後概ね３日間給水する災害用地下給水タンクが備えられています。近隣の瀬谷小学校、大門小学校には緊急給水栓があるが、これは発災後４日目以降に設置すると聞いています。もし移転によって給水タンクが無くなるのであれば、発災後３日間は瀬谷駅周辺に給水所がない事態となります。中学校移転と給水タンクはセットなのか、あるいは別物として取り扱いがされるものなのか。

→　中学校移転に伴う、災害用地下給水タンクの取扱いについては、今後の検討課題の一つとして、関係区局へ情報共有していきます。

☆ 地域防災拠点について、これから検討していくというのは遅いのではないか。

→　現時点は、これから瀬谷中学校を旧瀬谷西高校跡地へ移転させていただくという事業を横浜市として開始した段階です。当然、移転・引越しまでの間（令和 10 年夏頃までの間）は、現瀬谷中学校が備えている拠点機能等は変わりません。現瀬谷中学校移転後の地域防災拠点についても、関係局・区において検討及び整理する予定です。

☆ 今後旧上瀬谷通信施設地区の開発が進み、大門川に流れ込む水量が増え、溢れること等はないのか。

→　旧上瀬谷通信施設地区の開発に伴って、雨水調整池を整備いたします。調整池の整備をすることにより、大門川への流出量を調整することが可能となります。大門川に流せる量を基に整備計画を進めておりますので、対策が取れている状況と考えています。

5　瀬谷中学校移転後の跡地活用について

☆ 現瀬谷中学校の敷地を新たな交通の拠点として使用したいのではないか。

→　新たな交通の検討につきましては、過年度、新交通システムの導入に向けた環境アセスメントの手続きや、説明会を実施しましたが、具体的な整備位置等については決定していません。

令和６年度からは、専用道における次世代技術を活用したバスによる輸送システム導入を目指し、基本設計等にこれから着手し、具体的にどこに何をつくっていくかという検討を横浜市で行っていきますので、今後、中学校移転に係る調整状況も踏まえ、ターミナルの場所も含め、検討します。

☆ 現瀬谷中学校の土地は横浜市の土地であり、財産だと思う。必要な土地は使って、余分な土地は民間へ貸付や売却も想定できると思う。駅前の広い土地なので、有益に活用してほしい想いがあるが、そういった可能性は、今後あるのか。

→　現瀬谷中学校の土地における跡地活用の方針としては、瀬谷区マスタープランの方針等を踏まえつつ、まちの将来の発展につながる活用に向けて、まずは横浜市が検討を進める方向で考えています。

つきましては、移転後すぐに民間企業等に土地を売却することは現時点では想定していません。

☆ 移転後の瀬谷中学校跡地も含め、瀬谷駅前整備等の開発が今後予定されるとなった場合、今回のような住民説明会やスケジュールの共有を住民に向けにしてもらえるのか。

→　横浜市にて跡地活用する際は、将来何に使用するかによって、必要な都市計画手続を行うなかで、地域向けの説明会が開催されることが想定されます。

現時点においては、具体的な移転後の跡地活用について利用方法等の計画が定まっていませんが、決まっていく段階で都度、情報を公表しますので、御理解いただければと思います。

☆ 中学校移転後、現瀬谷中学校施設の解体は行うのか。行うとしたら、いつから行うのか。

→　跡地活用の方向性が決まっていないため、移転後に現瀬谷中学校施設の解体を行うかについては、現時点では決まっておりません。

★ 現瀬谷中学校の土地は、横浜市が当時の地権者から譲り受けたといった経緯からも、跡地には、そうしたことが分かるような記念碑のようなものを設置してほしい。

★瀬谷中学校移転後は、避難所に代わるような、新たな避難所の設備を設けるような複合施設、例えば生涯学習センターとかスポーツ施設など考えていただければと思う。

6　その他

☆　今後、検討すべき課題についてはどのように地域等に説明及び周知をしていくのか。

→　今後、どのような形で説明及び周知していくのかということについては、まだ決定していません。今回、いただいた御意見や質疑応答の内容については、ホームページ上で公開いたしますが、例えば、こちらのホームページ上で引き続き、情報を公表していく可能性もあります。

☆　なぜ今、移転を決めたのか。
GREEN×EXPO 2027（2027 年国際園芸博覧会）と中学校移転は関係ないのか。

→　以前より、遠距離通学による自転車通学を行っている状況や、プレハブ棟が撤去できない状況等から教育委員会としても課題認識はずっと持ってきたところです。

移転の検討経緯ですが、平成 30 年に瀬谷西高校と瀬谷高校を統合する計画を神奈川県が発表し、瀬谷西高校が移転先の候補地として浮上いたしました。その後、令和４年度末（令和５年３月）に最後の３年生が卒業して、瀬谷西高校が閉校となったことを契機と捉え、さらに瀬谷区区連会からも２度、中学校移転の御要望をいただいたということも踏まえ、検討を重ねた結果として今回移転をするという判断に至りました。

なお、中学校移転は、GREEN×EXPO 2027（2027 年国際園芸博覧会）後の令和 10 年夏休みを目途に、実施する予定です。

☆　瀬谷西高校は閉校後、高齢者用の施設になると聞いたことがあるが、その計画はないのか。

→　今回検討をする中で、神奈川県と話をしていますが、神奈川県からは瀬谷西高校閉校後、跡地を高齢者用施設に使用するといった話は聞いておりません。

★　今回の説明会や区連会や PTA 定例会など、色々な機会で意見交換を実施していただきました。今後も、中学校移転が一つのテーマですが、地域の方々に関心をもっていただくというのが、まちづくりで大事なことです。ここに住まわれている皆さんの思いをより良いものに、最大公約数へと繋がるよう、こうした機会を教育委員会だけでなく、多く設けていただければと思います。